

原文：[The New STM Integrity Hub](#) by Lisa Janicke Hinchliffe (May 3, 2022)

翻訳：[特定非営利活動法人 UniBio Press](#)

新しい STM インテグリティ・ハブ

Lisa Janicke Hinchliffe

2022年5月3日

先週、[STM ソリューションズ](#)は、オンラインウェビナーにおいて、[STM インテグリティ・ハブ](#)のプロトタイプを発表しました。STM 研究インテグリティ・ハブは、出版社が研究インテグリティの分野における問題を共同で解決するためのコラボレーション・スペースです。同時投稿、論文工場（ペーパーミル）などの不審なソースからの資料の痕跡、画像の改変などをチェックするスクリーニング・ツールの共有インフラを提供する予定です。

本日の「Scholarly Kitchen」では、STM インテグリティ・ハブのプロダクトディレクターである Joris van Rossum 氏と、STM ソリューションズの CIO である Hylke Koers 氏に、プロジェクトの詳細、目標、そして今後の展開についてインタビューしています。STM ソリューションズは、[STM \(International Association of Scientific, Technical and Medical Publishers : 国際 STM 出版社協会\)](#) の運営部門です。Nicola Nugent（英国王立化学会）、Catriona Fennel（Elsevier）、Adam Day（Sage）が、ハブ構築の参考となった出版社独自の取り組みについて発表したキックオフ [ウェビナー](#) の録画も、ぜひご覧になってください。



インテグリティ・ハブとは何ですか、なぜ必要なのですか？

Joris です。近年、残念なことに、研究インテグリティに関する問題が大幅に増えています。その多くは、論文工場のような利益を追求する不正な組織によるものですが、同様に学術の記録全体のインテグリティに脅威を与える、無意識の投稿エラーに由来するものもあります。論文工場は、学術雑誌に投稿される偽造原稿を作成する不正な組織です。偽造のプロセスでは、テキスト、画像、研究データを捏造、盗用、操作するために、日々進歩する高度な技術が使われています。これは、出版社、編集者、査読者に大きな負担をかけ、学術出版物に対する信頼を損ねています。STM とその会員の多くは、このような動態を深く憂慮しています。機械的な選別やトリージではなく、不正行為の可能性を検知し、編集者の意思決定を支援するフラグを立てることで、信頼できる最先端技術のソリューションが、これらの課題に取り組む上で重要な役割を果たすことができると考えています。

このハブの使命は、研究のインテグリティを守るためのデータ、インテリジェンス、テクノロジーを学術コミュニケーション・コミュニティに提供することです。私たちは、三つの方法でこれを実現することを目指しています。第一に、インテリジェンスと知識の共有を促進することです。例えば、出版社が論文工場によって作成された論文を特定する際の経験を共有することです。第二に、ポリシーとフレームワークを構築することです。研究のインテグリティを守るために私たちが行うことはすべて、法律や政策の枠組みにしっかりと組み込まれなければなりません。そのために、私たちは編集部や法務部、そして [COPE](#) のような組織と密接に連携して活動しています。そして大事なことを言い忘れましたが、出版社が安全で機密性の高い方法で複数の出版社にまたがるパターンを検出するためのコンテンツを提供し、さらに画像操作などの特定の形態の不正行為に焦点を当てたサードパーティのスクリーニング・ツールをワークフローに簡単に統合できるようなプラットフォームを構築することで、使命を全うしたいと考えています。

先週、「デモンストレーター」を発売されましたね。これについてももう少し詳しく教えてください。

Joris です。異なるジャーナルや出版社にまたがるコンテンツをプールすることは、インテグリティの問題に取り組む上で成功への重要な要素となります。例えば、出版社が排他的な投稿を期待または要求している場合、同時投稿を検出することは、査読者や編集者に負担を

かける問題であり、またしばしば論文工場の存在を示す兆候でもありますが、この検出は、システムが複数のジャーナルや出版社を横断する同時投稿を見つけ出すことができなければ、機能しません。しかし、コンテンツをプールすることは、不当に操作された資料など関する、包括的な参考事例やトレーニングセットを構築する上でも非常に重要です。現在の実証実験では、査読中の原稿の機密性を保持しながら、安全かつ確実な方法で、まさにこれを実現する柔軟で適応性のあるインフラを開発しました。このインフラでは、出版社が原稿（の一部）を共有し、選択されたツールがその情報にアクセスできる環境を提供します。私たちは、二つの具体的な実装のデモを行いました。一つは同時投稿を検出するもの、もう一つは撤回された論文工場の資料の再投稿を検出するものです。もちろん、どちらの実装も他のユースケースに拡張することが可能です。

ハブの開発には誰が関わっていますか？また、STM 内の他の活動、例えば標準技術執行委員会 (STEC) の作業とどのような関係があるのでしょうか？

Hylke です。このハブは、2021 年に設立された STM の運営部門である STM ソリューションズが開発しており、STM 会員や幅広い学術コミュニケーション・コミュニティのためのサービスやインフラの運営を開発・可能にし、適切または必要に応じて相乗効果を生み出すことを目的としています。

インテグリティ・ハブは、STM の STEC グループのワーキンググループ、特に「同時投稿」と「画像の改竄と複製」に関するワーキンググループで実施された以前の作業をベースにしています。これらのワーキンググループは現在も存続しており、その活動はインテグリティ・ハブの開発ロードマップに直接反映されています。このようにして、私たちは、異なる出版社から発信されたコンテンツに共通するパターンを安全かつ確実に探す方法など、これらのワーキンググループが直面したいくつかの課題に対して、ハブが実用的なソリューションを提供することを確認しています。STEC と STM ソリューションの間で行われている作業間の連携は、STM ソリューションを設立した理由、つまり、実際に運用してみること、優れたアイデアやコンセプトを実現する能力を提供することを物語っています。

STEC のワーキンググループを通じてこれらのトピックにすでに関与していたすべての組織に加え、STM メンバーやその他の組織からも、アイデアや専門知識を提供することに多

くの関心が寄せられました。現時点では、20 以上もの組織が何らかの形でインテグリティ・ハブに貢献しています。

このプロジェクトで協業している STM のメンバーは、商業的な競合相手でもあります。コラボレーションを促進する上で、また、機密情報の不適切な開示に関連する問題に関して、これらの活動をどのように管理しているのでしょうか？

Joris です。非常に良い質問ですね。もちろん、これらの問題は非常に重要です。私たちは、STM や STM ソリューションズで行っているすべての仕事と同様に、STM がすべての規則や規制に完全に準拠するよう最善を尽くし、参加メンバーも同じように対応します。この目的のために、STM インテグリティ・ハブは法務タスクフォースを立ち上げ、出版社がインテグリティ・ハブに参加するための法的障壁を取り除くと同時に、適切な法的規定を整備することをめざしています。出版社間の競争についてですが、ハブは、すべての出版機関が純粋に自発的に利用できるプラットフォームとして設計されています。研究インテグリティは、出版社間の協力が、各参加者や社会全体にとって価値を高める領域の好例です。研究インテグリティの問題は、コミュニティ全体が直面するものであり、いずれかの出版社が不正行為やインテグリティ問題の標的となることは、より広いエコシステムの信頼を損なうことになるため、誰の利益にもなりません。20 社の出版社（あらゆる形態、種類、規模の出版社）が、このハブに積極的に参加していることが、それを物語っています。出版社の中には、特定のユースケースに取り組むワーキンググループ（現在、同時投稿、画像操作、論文工場を検討するワーキンググループがあります）への参加を通じて、インテグリティ・ハブに積極的に参加しているところもあれば、コミュニケーション、サイバーセキュリティ、法的側面などの包括的問題を扱うタスクフォースの一つに貢献しているところもあります。そして最後に、インテグリティ・ハブは、出版組織の上級代表 10 名で構成されるガバナンス委員会を備えています。ハブの全ミッションは、品質、合法性、倫理性、公正性という平等な場で競争が継続できるよう、多様でありながら安全な環境を確保することにあります。

インテグリティ・ハブの資金はどのように調達されているのですか？

Hylke です。わたしたちは、今年中に、財務的な持続可能性についてのモデルを構築する予定です。憶測で話すのは控えたいのですが、運用コストの少なくとも一部は統合料金で回収

することになるでしょう。もちろん、この料金には、可能な限り広く普及させるためのさまざまな範疇が設けられる予定です。

このコラボレーション・ハブはまだ始まったばかりですが、具体的な目標やゴールを念頭に置いて開発されたと確信しています。プロジェクトの成功を評価するために、どのような指標データを捕捉しているのでしょうか？

Joris です。2022 年は、ハブを構築する年です。この段階では、主に、参加出版社のレベル、ハブで扱うユースケース、投稿システムとの統合、サードパーティツールプロバイダーとの連携などについて、成功の度合いを測定します。来年から始まる予定のハブの運用フェーズでは、主な目標として、投稿時にインテグリティの問題を発見する能力を高め（それによって、インテグリティの問題による撤回が必要となる可能性のある数を減らし）、最終的にインテグリティの問題を持つ論文の流入を減らすことを目指します。リジェクトの特性（リジェクトの数、理由、ハブの関与）などを分析することで、これを測定することができるようになります。もちろん、出版社や編集者への浸透も、この取り組みの成功を測る重要な要素です。

出版社がこのコラボレーション・ハブの詳細を知り、今後プロジェクトに参加するにはどうすればよいのでしょうか？

Joris です。[ハブの詳細については、私たちのウェブページでご覧いただけます](#)。既にお話ししたとおり、現在、20 社の出版社が積極的に活動していますが、さらに多くの出版社の参加を歓迎しています。詳しくは、Joris (joris@stm-solutions.org) までお問い合わせください。

Lisa Janicke Hinchliffe

Lisa Janicke Hinchliffe は、イリノイ大学図書館の情報リテラシー・サービスと指導の教授／コーディネーター、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校情報科学部の提携教授です。

lisahinchliffe.com

=====

(著作権に関する注意書き)

本記事の原文の著作権は、著者が保持しています。著者は、SSP(Society for Scholarly Publishing) に対して、本記事をあらゆる言語で世界中に配布する権利を許諾しています。UniBio Press は、SSP から許諾を得て、本記事を日本語に翻訳し、本サイトに掲載しています。

=====